

成層圏プラットフォーム計画

高度4キロで初の通信放送実験

JAXA「今季の目標ほぼクリア」

フォーム」の定点滞空飛行試験を町多目的航空公園で行った。今回は前回(19日)同様、高度約4キロまで上昇。初めて同高度での通信放送実験も行い、現在の実験用無人飛行船(全長68メートル)による飛行試験は「ほぼ今季の目標をクリアした」(JAXA関係者)としている。

国が研究開発を進める「成層圏プラットフォーム」計画は、将来的に全長250メートルの無人飛行船を全国各地に浮かべ、通信放送や地球観測、災害監視に利用する。

【大樹】独立行政法人の宇宙航空研究開発機構(JAXA)と情報通信研究機構(NICT)は22日、「成層圏プラットフォーム」

初めて空4キロでの通信放送試験などを行った実験用飛行船



フォーム」の定点滞空飛行試験を町多目的航空公園で行った。今回は前回(19日)同様、高度約4キロまで上昇。初めて同高度での通信放送実験も行い、現在の実験用無人飛行船(全長68メートル)による飛行試験は「ほぼ今季の目標をクリアした」(JAXA関係者)としている。

実験条件に恵まれ、同高度へ初めて人が操作しない

間定居滞空し、前回上空

3・6キロ地点で行ったハイジャンのデジタル放送など3種類の通信放送実験を再度実施した。飛行船同士の通信手段となる光通信の実験など計画通りのデータを取得した。

25日に関係者会議が開かれ、同公園で飛行試験を継続するか、本部(東京)でのデータ解析に専念するかは今季日程を決める。(松村智也)